

学校教育目標	やさしく かしく たくましく
目指す学校像	学校の伝統と地域の実態を踏まえ 人に学び 社会に学び 自然に学ぶ 魅力ある学校
重点目標	1 教育DXによる児童の主体的な学びの推進 2 一人ひとりの多様な幸せ (Well-being) を実現する教育の推進 3 コミュニティ・スクールを核とした学校・家庭・地域との連携・協働の充実 4 安心・安全な「学びの場」としての環境づくり 5 子どもの可能性を最大限に伸ばす教職員の資質向上研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和8年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に関する取組	<現状> ○昨年度の全国学力・学習状況調査、市の学習状況調査では、多くが市平均を下回っている。 ○日々の児童の学習の様子から、支援が必要な児童が多い。 <課題> ○基礎・基本の定着、図表などを用いて考えを表現することに課題が見られる。 ○学習規律の定着、児童一人ひとりが主体的に学ぶために、教員が授業改善に取り組んでいく。	・基礎学力の確実な定着 ・学校課題研究や指導訪問などでの授業力向上	①学力調査の結果をもとに、基礎学力の定着、読解力の向上を目指すとともに、学習習慣の定着、生活習慣の形成に取り組む。(マミヤンカード) ②学校課題研究や指導課訪問を中心とし、日々授業改善に取り組む。	①全国学調・市学調の結果を分析し、身に付けさせたい力を明確にできたか。学校評価アンケートにおいて、学力、授業改善の項目で85%以上になったか。 ②学校評価アンケートにおいて、学校課題研究の項目で回答85%以上になったか。	①全国学調、市学調の結果を分析し、基礎学力の定着のため、マミヤンタイムや授業の導入等で基礎的・基本的事項の定着を図った。学校評価職員アンケート92% ②学校課題研究での授業研究会3回実施や指導訪問により教員一人ひとりが授業改善に取り組むことができた。学校評価職員アンケート98%	B	①基礎学力の定着については今後も継続して取り組む必要がある。また、よりよい学習・生活習慣の形成を家庭からの協力を得て、行っていく。 ②学校課題研究については次年度3年目となり、引き続き、教員一人ひとり授業力改善、資質向上に取り組む。
		・地域の実態を生かしたカリキュラムマネジメントの充実	①地域の実態を生かした「カリマネデザインマップ」をもとに教科横断的な学びを実践し、次年度に向け、見直し・充実を図る。	①地域の実態を生かした教科横断的な学びの実践、2月中に、次年度のカリマネデザインマップの見直しが見えたか。	①今年度のものをベースに、目指す学校像、地域の実態を生かしたカリマネデザインマップを現在作成中である。	B	①カリマネデザインマップをもと、教員一人ひとりが、地域のよさを生かした教育活動を展開していく。
心のサポートに関する取組	<現状> ○不登校傾向や配慮や支援を必要とする児童がおり、組織を生かし、迅速な対応、体制が必要。 ○新たな環境へ対応や人間関係の構築に課題がある児童が増えている。 <課題> ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切で迅速な支援を組織的、計画的に行う体制を充実させる。 ○校内委員会等を通して、児童の実態や必要に応じた専門職や関係機関との連携を充実させる。	・児童一人ひとりに寄り添った積極的、組織的、かつきめ細やかな支援体制の充実	①月1回の生徒指導委員会で児童の様子を全職員で共有を図り、積極的、組織的、継続的な対応、きめ細やかな支援をする。 ②担任や担当からの情報が確実に関係主任や管理職に報告される体制をつくり、校内委員会で指導・支援体制を決定し、対応する。	①月1回の生徒指導委員会で児童の情報共有、積極的、組織的、継続的な対応、きめ細やかな支援が見えたか。学校評価アンケート生徒指導・教育相談項目で85%以上になったか。 ②校内委員会の積極的な実施、学校評価アンケートにおいて、組織的運営の項目で85%以上になったか。	①月1回の生徒指導委員会や日頃より児童の様子について積極的、継続的な情報共有、組織的な対応、きめ細やかな支援をすることができた。学校評価職員アンケート94% ②担任や担当からの情報提供から校内委員会を適宜実施し、指導の方向性や支援方法などを決定するなど組織的に対応することができた。学校評価職員アンケート100%	A	①日頃より児童の様子について、担任や関係主任と情報共有を行い、迅速、かつ組織的な対応ができるように組織づくりを継続していく。 ②必要に応じて校内委員会を開催し、児童へのきめ細やかな支援、指導に繋げるなど、組織的、継続的な支援体制にする。
		・児童一人ひとりの思いに寄り添い、クラスで安心して過ごせる場に、学年・学級での所属感、自己肯定感を高める取組や振り返りを実施する。	①児童一人ひとりの思いに寄り添い、クラスで安心して過ごせる場に、学年・学級での所属感、自己肯定感を高める取組や振り返りを実施する。	①不登校傾向や学校生活に不安を抱える等の児童の思いに寄り添い、不登校や不登校傾向の児童を減らすことができたか。	①児童一人ひとりの思いに寄り添い、学校生活への不安等に対しても意図的・継続的にかかわり、学年・学級への所属感をもてるようにした。不登校傾向児童がやや増えた時期もあったが、現在はそれぞれの状況に合わせた対応をしている。	A	①児童一人ひとりの状況に合わせ、思いに寄り添う対応を継続する。また、人間関係の構築や環境への適応力など、児童のよりよい成長を促す働きかけを行っていく。
地域とともにある学校づくりに関する取組	<現状> ○学校行事や学校 Web ページ等で教育活動の積極的公開をしている。 ○おやじの会など地域の方々や児童とのかかわりが計画的に実施されている。 <課題> ○学校運営協議会を中心としたコミュニティ・スクール体制、SSN 等との連携を強化する。 ○学校・家庭・地域での取組として「あいさつ」「読書」に取り組んできたが、読書については継続しての取組が必要である。	・コミュニティ・スクール体制を充実し学校、家庭、地域の協働の充実	①コミュニティ・スクール体制のより一層の充実。 ②学校、家庭、地域が一体となった取組を学校運営協議会に計画代表委員の児童が参加して話し合い、実施する。	①学校、家庭、地域が一体となった取組を実施し、コミュニティ・スクール体制を充実させることができたか。 ②学校運営協議会に計画代表委員の児童が参加し、学校・家庭・地域で取組について主体的に話し合いをすることができたか。	①学校運営協議会で育てたい子どもの姿について話し合うことで、コミュニティ・スクール体制の充実を図ることができた。 ②学校運営協議会に計画代表委員の児童が参加し、取組を紹介し、主体的な参画に繋がられた。	A	①学校運営に児童が参画する機会を継続し、学校、家庭、地域が一体となった取組を充実させていく。(コミュニティ・スクール体制の充実)
		・「読書活動」の推進 ・学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動の実施	①「読書活動」の取組を計画的、継続的に実施し、読書活動の充実を図る。 ②学校運営協議会の内容を SSN や学校 Web ページ等で共有し、あいさつ運動を実施する。	①「読書活動」の取組を継続し、年間を通して読書時間の増加 ②学校運営協議会の内容について SSN や保護者等に共有・周知し、重点項目について学校評価アンケート85%以上になったか。	①週1回の読書タイム、月1週間のマミヤンカードの取組を継続して行った。また読書の時間をデータとして記録したことで、少しでもあるが読書時間が増加した。 ②学校運営協議会の内容について、SSN や学校により周知することができた。学校評価保護者アンケート97.3%	B	①学習・生活習慣の形成のための「マミヤンカード」を次年度以降も継続し、家庭と連携したよりよい習慣を身に付けられるようにする。 ②学校運営協議会を中心とした取組について、新たなものも含め検討をしていく。
教育環境の整備に関する取組	<現状> ○児童が安心して過ごせる居場所(教室、Sola 一む、保健室等)づくりに取り組んでいる。 ○校舎内外の美化及び清掃活動を通して気持ちのよい、落ち着いた環境づくりに取り組んでいる。 <課題> ○施設・設備の老朽化や不具合等が見られる。 ○清掃時間は児童と共に教員も清掃活動に取り組んでいるが、発達段階に応じた指導が必要。	・全ての児童が安心して過ごせる居場所の整備・充実	①毎月の安全点検、日常の安全管理を行い、修繕等が必要な場合は迅速に対応する。 ②全ての児童が安心して過ごせる居場所、児童の励みとなるよう教室等のユニバーサルデザイン、校内掲示等を工夫していく。	①安全点検の結果や修繕箇所に迅速に対応し、改選することができたか。 ②教室や校内掲示等定期的に作成や貼り替えを行ったり、児童の頑張りが分かるものにしてきているか。	①毎月の安全点検や日常の安全管理を行い、修繕が必要な箇所等について関係職員と連携し、迅速に対応した。 ②児童が安心して過ごせる環境づくりとして、掲示物の充実し、学級への所属感を高める工夫をすることができた。	A	①施設設備の老朽化や不具合等については危機管理意識も併せ、迅速に対応できるようにする。 ②児童が安心して過ごせる場所、落ち着いて学習に取り組める環境づくりを継続して行っていく。
		・学校全体で取り組むよりよい環境づくり	①無言清掃、協働活動で教員も児童と一緒に清掃活動を行い、気持ちのよい環境づくりを行う。 ②学校敷地内の計画的な栽培や定期的な整備を行う。	①児童一人ひとりが日々の清掃活動を進んで行うことができたか。 ②学校評価アンケートにおいて、安全管理、施設・設備の状況の項目において90%以上になったか。	①児童とともに教員も一緒に清掃活動に取り組み、気持ちのよい環境づくりを行うことができた。 ②学校敷地内の整備について、担当だけでなく地域の方々の協力を得て、充実させることができた。学校評価保護者アンケート94.4%	A	①清掃活動を児童と教員と一緒に取り組む時間と位置付け、気持ちのよい環境づくりを継続する。 ②学校敷地内の定期的な点検や計画的に栽培を通して環境整備を行う。
教職員のキャリア形成に関する取組	<現状> ○ICTを活用することにより業務改善が進んできている。教員のICT活用については、やや個人差がある。 ○分掌による仕事量増、児童・保護者対応等により、業務過多や負担が大きい職員も見られる。 <課題> ○学校課題研究でICTの効果的活用の授業改善に取り組み、教員の授業力向上に繋げる。 ○業務のスリム化、分掌間の連携等、随時見直し、教職員が安心とやりがいをもって業務に取り組めるようにすることが必要である。	・学校職員一人ひとり、また組織としての力を発揮し、馬宮東小学校の誰もが働きがいのある学校づくり	①学校課題研究や指導訪問等での授業改善を行っていく。また、学校DX推進部を中心にICTに係る研修を実施し職員一人ひとりの資質向上を繋げる。 ②人事評価制度を活用し、全ての教職員の資質向上や授業改善に繋がれるように、目標設定、途中経過確認、振り返りを行う。 ③業務の精選や各行事の反省をもとに、随時業務の見直し、教職員の負担軽減を図り、協力し合える、相談しやすい職場環境づくりをする。	①学校評価アンケートにおいて、学校課題研究、ICT活用の項目で85%以上になったか。ICT研修を学期2回以上実施できたか。 ②人事評価制度を活用し、全ての教職員の資質向上や授業改善等について、キャリアの振り返りシートをもとに指導・助言ができたか。 ③業務の精選、見直しを新たに図り、保護者に周知し、理解を得る。学校評価アンケート肯定的回答85%以上、職員勤務に関するアンケート業務負担感減。	①学校課題研究や指導訪問、ICT研修を計画的に実施することができ、職員一人ひとりの資質向上に繋がった。学校評価職員アンケート98% ICT研修は学期1回実施 ②人事評価や日頃からのコミュニケーションから教職員への資質向上や授業改善に向けた指導・助言を行うことができた。 ③必要に応じて業務の精選や改善を実施するとともに、協力し合える職場環境づくりをすることができた。学校評価職員アンケート100% 職員の勤務に関するアンケート業務負担感や減。	B	①学校課題研究は3年目となり、これまでの取組のまとめとなるようICTの効果的活用を意識した授業改善に取り組んでいく。 ②日頃より職員とのコミュニケーションを活発にし、思いや願いを汲み、適宜指導・助言をすることでやりがいのある、働きがいのある職場環境にしていく。 ③業務の精選や改善は継続して取り組むとともに、保護者にも周知し、理解を得ながら行っていく。

・子どもたちがのびのびと学校生活を送っていることから、学校が安心できる場所になっていることが伺える。  
 ・限られてはいるが、学校敷地内で、様々な取組を通して環境整備や体験学習が行えるとよい。  
 ・ICTを学習で効果的に活用していることが授業参観を通して感じるとともに、子どもたちの使い方についてどのように指導をしているのか気になった。  
 ・様々な研修等を通して、教員一人ひとりの授業力向上と業務改善を進めていって欲しい。